

青森県の野菜・その現状と将来展望

青森県畑作園芸試験場

次長 横井正治

はじめに

青森県の農業は米とリンゴに代表され、野菜は自給生産が大半を占め、食用菊など一部マイナー野菜が県外出荷をする程度の野菜の消費県であった。

しかし、昭和30年代に入って、南津軽郡常盤村の水田転作畑で始まったスイカのトンネル栽培が、40年代に屏風山スイカ産地へと進展し、また、小学生らが農業試験場で取組んだ寒地ニンニクの一連の研究から全国一のニンニク産地になり、さらに40年代後半から50年代前半に栽培が急増したナガイモもわが国トップの産地に台頭するなど、本州の北の最果ての寒冷地青森県は、ここ20数年で福島県と肩を並べる東北の野菜産地に急成長した。

特に近年、米の消費の減少に伴う稻作の減反強化と米価の引下げによる米の生産減退が、県農業生産に大きなダメージを与えており、これらをカバーするためにも野菜の積極的な生産拡大が望まれている。

県では昭和58年を基準年として、平成7年（昭和70年）を目標に生産額を2倍に伸ばそう、と『野菜生産額倍増運動』を展開中である。

1 気象条件の異なる津軽と南部

青森県は本州最北端の約北緯40度20分から41度30分に位置する寒冷地で、東は太平洋、西は日本海、北は津軽海峡と3面海に囲まれた県で、青森市東部か

ら十和田湖に縦に線を引き、左側（西部）を津軽地帯、右側（東部）を南部地帯と一般に呼称している。この名は藩政時代の藩名に由来しているが、同じ県でありながら津軽と南部の気象条件が、まったく異なっている。

津軽地帯は冬期間日照が少なく、ひと月の日照時間が60時間くらいで降雪が多い雪国であるが、南部地帯は冬期間の日照が多く、太平洋岸の八戸市近郊では津軽の2倍の日照時間で積雪はほとんどない年が多い。すなわち、表日本と裏日本の気象が同居している県でもある。

また、春から夏にかけての気象は、津軽では日照時間が多く、降水量が少なく、北海道に次いで



図1 青森県の農業地域区分図

梅雨が少ない地域であるのに反し、南部は太平洋から吹き込む偏東風（ヤマセ風という）で春から夏の気温が低く湿度も高い。

もっとも、南部地帯でも八戸市以南の三戸地区はヤマセ風の吹走が少なく、県内では最も気候が温和で、古くからブドウ、ナシ、オウトウ、ウメ、リンゴなどの果樹と野菜の生産が盛んな地帯である。

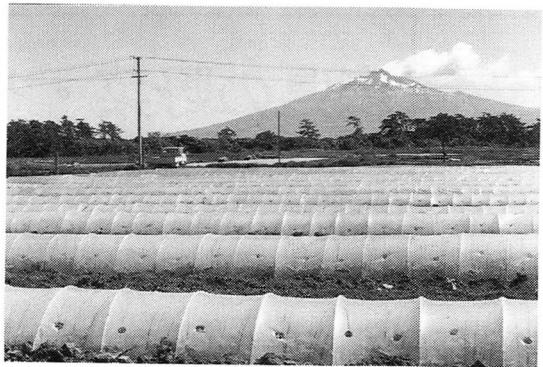
以上のような気象立地から、青森県の農業は津軽の平坦地は稻作、岩木山の東・南麓と八甲田山系の西麓にはリンゴ園が広がり、米とリンゴの津軽の農業が定着してきた。一方、南部地帯（一部三戸地区のほか）は、春から夏にかけて吹走する冷湿なヤマセ風によって稻作が不安定で、平坦で

表1 昭和63年産県産主要野菜の生産・出荷状況及び全国における地位

(単位:トン, %, 位)

| 区分 | 青森県 | | | シア | | | 順位 | | |
|---------|-------|--------|--------|------|------|------|----|----|----|
| | 面積 | 収穫量 | 出荷量 | 面積 | 収穫 | 出荷 | 面積 | 収穫 | 出荷 |
| ながいも | 2,780 | 50,200 | 44,100 | 32.1 | 34.3 | 39.1 | 1 | 1 | 1 |
| だいこん | 2,780 | 93,300 | 79,900 | 4.4 | 3.8 | 4.5 | 6 | 7 | 6 |
| 夏だいこん | 1,280 | 35,000 | 31,900 | 11.7 | 11.2 | 11.9 | 2 | 2 | 2 |
| ばれいしょ | 2,290 | 49,200 | 35,200 | 1.8 | 1.3 | 1.2 | 7 | 6 | 5 |
| にんじん | 2,170 | 58,300 | 51,700 | 8.9 | 8.6 | 8.9 | 3 | 3 | 3 |
| 春夏にんじん | 661 | 18,300 | 17,000 | 10.9 | 9.9 | 10.4 | 3 | 3 | 3 |
| にんにく | 1,640 | 17,100 | 11,630 | | | | 1 | 1 | 1 |
| ごぼう | 914 | 13,600 | 11,500 | 6.2 | 5.4 | 5.8 | 5 | 7 | 7 |
| キャベツ | 898 | 27,200 | 19,000 | 2.2 | 1.7 | 1.4 | 12 | 14 | 15 |
| スイートコーン | 897 | 7,590 | 4,810 | 2.3 | 2.0 | 1.7 | 11 | 9 | 9 |
| はくさい | 791 | 24,700 | 16,000 | 2.6 | 1.9 | 1.7 | 11 | 12 | 12 |
| メロン | 763 | 12,900 | 10,900 | 4.7 | 3.6 | 3.3 | 6 | 9 | 9 |
| すいか | 694 | 17,200 | 14,500 | 2.9 | 2.2 | 2.2 | 12 | 14 | 14 |
| えだまめ | 515 | 4,400 | 2,350 | 3.6 | 4.2 | 3.4 | 10 | 7 | 12 |
| かぼちゃ | 461 | 6,030 | 3,510 | 2.5 | 2.1 | 1.7 | 8 | 7 | 10 |
| きゅうり | 442 | 12,300 | 9,020 | 2.0 | 1.3 | 1.1 | 18 | 28 | 27 |
| 夏秋きゅうり | 411 | 10,200 | 6,960 | 2.5 | 1.9 | 1.8 | 14 | 20 | 19 |
| ねぎ | 392 | 8,100 | 5,920 | 1.6 | 1.6 | 1.6 | 22 | 20 | 16 |
| 夏ねぎ | 64 | 1,580 | 1,330 | 1.4 | 1.6 | 1.6 | 21 | 17 | 14 |
| トマト | 385 | 11,600 | 8,810 | 2.6 | 1.5 | 1.3 | 12 | 22 | 23 |
| 夏秋トマト | 370 | 10,600 | 7,800 | 3.4 | 2.4 | 2.2 | 7 | 14 | 14 |
| ほうれんそう | 318 | 3,150 | 2,190 | 1.2 | 0.8 | 0.7 | 26 | 34 | 32 |
| レタス | 188 | 2,930 | 2,390 | 0.9 | 0.6 | 0.5 | 24 | 26 | 26 |
| 夏秋レタス | 174 | 2,680 | 2,180 | 1.9 | 1.2 | 1.1 | 5 | 5 | 5 |
| さやえんどう | 169 | 807 | 563 | 1.9 | 1.3 | 1.3 | 18 | 22 | 16 |

資料：青森統計情報事務所「園芸作物統計」



屏風山のスイカ、メロン产地

広い畠では大豆、バレイショ、ナタネ、トウモロコシなどの畠作農業が展開してきた。

2 40年後半から50年に急増

青森県の野菜産地は、古く明治末期から産地化された三戸郡の“食用菊”は別として、ほとんどの産地は昭和30年代後半から40年代初期に胎動を始めた新興産地である、と言ってよい。

40年初期から産地化が進められた津軽の日本海沿岸台地の“屏風山スイカ産地”に代表されるスイカ栽培は48年に1,800haを上回って全国5位。30年代後半から産地育成が始まったナガイモ、ニンニクは49年には、それぞれ栽培面積が全国1位になって、その後も年とともに栽培面積と生産、出荷量を伸ばし、現在では全国流通量の50%強を占めるニンニク、約40%のナガイモは本県野菜の2本の大黒柱になっている（表1）。

また、近年急増しているニンジンは北海道、千葉県に次ぐ全国3位に台頭してきたが、ここ10か年の伸び率からみるとサヤエンドウ、ホウレンソウ、ゴボウ、レタスなどが増えている。



収穫間近のニンニク産地



バレイショの中耕、培土作業

3 青森野菜の主軸は根菜類

青森県の野菜で栽培の多い品目は2,500 ha以上のナガイモ、ダイコン、約2,300 haのバレイショ、2,200 haになったニンジン、1,600 haのニンニク、それに、ここ2、3年急増しているゴボウなどと、土物の根菜類である。

これは、従来一般畑作物の栽培を主幹にしてきた畑面積の多い南部地帯が50年代に入って急激にこれらの根菜類の栽培に切り替えられたことに起因している。

その理由として、①野菜の中でも比較的投下労働力が少ない、いわば畑作物的野菜であること、②トレンチャーの普及などにより機械作業ができる、大面積栽培が可能である、③輸送、貯蔵性が高いこと、などがあげられる。

もっとも、ナガイモの生産拡大により、産地では大型の貯蔵施設（冷蔵庫）を持っていることと、ほとんどの産地で予冷施設（差圧など）を設置しているので、貯蔵と出荷調整ができることも重量野菜の大型産地を可能にしていると言えよう。

加えて、前述したように、この地帯は冷湿なヤマセ吹走地帯であるため、比較的低温に強い根菜類が主体になったのがうなづけよう。

一方、津軽地帯でも八甲田山麓の高原野菜産地では、近年、夏ダイコンからニンジンに大幅に切り替えられ、水田地帯には転作栽培のニンニクが伸びている。

4 伸びる上北、三戸、西地域

県内の地域別野菜栽培面積の推移をみると（図

2），上北地域が他地域より大幅に高い伸びを示しており、次いで三戸と西地域である。この図は単なる面積だけではあるが、生産量、出荷額も同じような傾向を示している。

すなわち、青森県の野菜産地は、南部地帯では上北と三戸、津軽地帯では西地域が代表的といえる。

とくに、西地域は屏風山北部の砂丘畑開発が国営事業で進められ、スプリンクラーで散水が自動化され、さらに一枚6 haの畑が黒松の防風林で囲まれた近代的な砂丘畑が62年に817 ha造成を終え、野菜産地化を目指しているのが異色である。

また、上北地域などのヤマセ常襲地帯では、不安定な稻作農業から畑作、野菜への経営転換が試

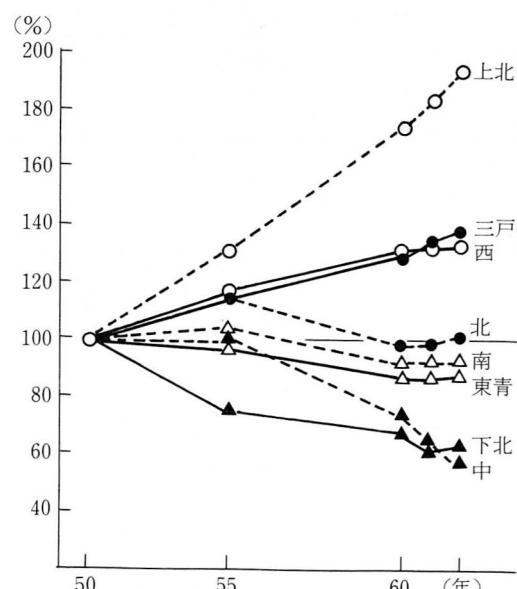


図2 県内地域別野菜栽培面積の推移(50年=100)

行されようとするなど、青森県の野菜営農が更に拡大の気運にある。

ここ2,3年で目標平成7年を目指した野菜振興計画も63年度すでにオーバーする品目もでて(表2), 計画の見直しが必須になってきた。

5 野菜振興計画のねらい

野菜振興計画を達成するため、58年平均換算値

表2 主要品目の作付面積の推移及び目標面積

の野菜生産額455億円を、昭和70年度(平成7年度)に約2倍に高めようとする60年度から始めた“野菜生産額倍増運動”も半ばになろうとしている。

各農業地域別の野菜作付面積の見通しを立て、栽培面積は58年の37%増の28,000haを目標にし、単収を高め、出荷率も高めようとしている。

主要品目は18品目とし、積極的拡大品目にホウレンソウ、ネギ、トマト、メロン、ニンジン、エダマメ、ゴボウ、スイートコーンの8品目。拡大品目にダイコン、キュウリ、レタス、キャベツ、ニンニク、バレイショ、ナガイモ、カボチャの8品目。抑制品目はスイカ、ハクサイの2品目である。

品目別、地域別に振興方針と生産出荷目標を立て、地域の主要作付体系を付して運動を積極的に行なっている。

また、低かった野菜の系統出荷率も次第に高まり、昨年度は県経済連扱額が300億円を突破した。

さらに、青森空港もジェット化されたので、三沢空港とともにドライト野菜にも積極的に取組むため、ドライト野菜の産地化も進めている。

| 区分 | 昭50 | 55 | 58 | 60 | 61 | 62 | 63 | 平7(目標) |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 野菜合計 | 17,500 | 19,400 | 20,380 | 21,030 | 21,250 | 21,640 | 21,530 | 28,000 |
| 野菜計 | 14,900 | 16,900 | 17,700 | 18,400 | 18,700 | 19,100 | 19,240 | 25,000 |
| ながいも | 1,010 | 2,260 | 2,350 | 2,740 | 2,740 | 2,770 | 2,780 | 2,800 |
| だいこん | 1,820 | 2,340 | 2,610 | 2,590 | 2,550 | 2,600 | 2,780 | 3,100 |
| ばれいしょ | 2,600 | 2,500 | 2,680 | 2,630 | 2,550 | 2,540 | 2,290 | 3,000 |
| にんじん | 713 | 866 | 1,130 | 1,500 | 1,700 | 1,840 | 2,170 | 1,900 |
| にんにく | 423 | 882 | 1,150 | 1,460 | 1,590 | 1,650 | 1,640 | 1,450 |
| ごぼう | 389 | 427 | 441 | 651 | 666 | 762 | 914 | 650 |
| キャベツ | 817 | 856 | 895 | 897 | 889 | 915 | 898 | 1,000 |
| スイートコーン | 942 | 886 | 844 | 832 | 866 | 955 | 897 | 1,150 |
| はくさい | 991 | 965 | 973 | 894 | 891 | 853 | 791 | 700 |
| メロン | 478 | 647 | 853 | 697 | 719 | 758 | 763 | 1,100 |
| すいか | 1,780 | 1,500 | 941 | 831 | 799 | 768 | 694 | 800 |
| えだまめ | 494 | 620 | 653 | 606 | 622 | 585 | 515 | 900 |
| かぼちゃ | 468 | 489 | 581 | 610 | 580 | 489 | 461 | 700 |
| きゅうり | 608 | 585 | 582 | 535 | 523 | 499 | 442 | 650 |
| ねぎ | 451 | 417 | 475 | 411 | 403 | 405 | 392 | 1,100 |
| トマト | 907 | 820 | 498 | 442 | 429 | 408 | 385 | 750 |
| ほうれんそう | 204 | 220 | 268 | 283 | 307 | 316 | 318 | 1,300 |
| レタス | 151 | 185 | 217 | 201 | 215 | 188 | 188 | 280 |
| さやえんどう | 87 | 70 | 86 | 112 | 137 | 160 | 169 | 200 |

(注)野菜合計…ばれいしょを含む。 資料:園芸作物統計、青森県野菜振興計画
野菜計…ばれいしょを含まない。

雪たね同友会のご案内

会員の特典

- 毎月1回「牧草と園芸」誌をお送りします。
- 酪農・畜産・園芸に関する質問にお答えします。
- 研究農場、あるいは現地試験場での研究成果を希望によってご紹介します。
- モデル栽培農家選定に際し、できるだけ優先します。

入会方法

- どなたでも、今すぐ入会できます。
- 入会ご希望の方は、1か年会費1,200円を添えて、弊社札幌本社「雪たね同友会」係あるいはお近くの弊社各事業所宛お申し込み下さい。
- 振替による送金が便利です。
札幌本社 小樽3-18248番 東京支社 東京1-56434番。
- 会費が入金になりますと会員名簿に登載し、「牧草と園芸」「会員証」をお送りします。

●お願い 「雪たね同友会」の会員期間が終了している方は、引継ぎ会費ご送金の上、ご愛読下さいますようお願い申し上げます。